

4年生 総合的な学習

4年1組 「わくわく わき水調査隊」

お三の宮通りから黄金町方面へとまち探検に出かけた際、日ノ出湧水というわき水に出会いました。触るととても冷たくて、飲めそうなほどきれいな水がたくさん出ていました。「このわき水は、いったいどこから出ているのだろう。」そんな疑問から、わき水調査隊の活動がスタート。

野毛山から流れて出ていると聞き、水の音をたどり野毛山に上ってみました。野毛山の高さを感じ、社会科で学習した水の循環を実感することができました。また、まちの人にインタビューすると、昔も今も様々な使われ方をしていることがわかりました。昔は飲み水としてまちの人に親しまれ、あまりの美味しさに外国船に売られるほどだったそうです。戦争時代にはこのわき水を飲んで、命をつなぐことができたそうで、「まちの人を救った命のわき水だ。」と、子どもたちは驚いていました。散歩中の犬は、水道水よりもなぜかこのわき水を好んで飲んでいました。水槽の水に使うと金魚が長く生きることから、わざわざわき水を汲みに来る人もいます。夏の時期は打ち水にも使われています。こうして、昔も今も大切に使われているデザインが三代目であることが分かったのです。「どうして形が変わっていったのかな。」次のなぞの解決に向け、わき水調査隊の活動は続きます。



4年2組 「大好き！生き物たくさん大岡川」

理科の季節の生き物を観察する学習に子どもたちは興味をもっていました。「春の生き物探し」で蒔田公園橋を渡って蒔田公園に行ったときに、何人もの子どもたちが身を乗り出す勢いで川を指さして「クラゲがいる！」「あの大きい魚はなんだろう。」と声を挙げて、大岡川の生き物に関心を示していました。学校で振り返りをすると、「どれだけの種類の生き物があるのかな」「川なのにクラゲがいるのは何でだろう」「川はどこまで続いているのかな」「自転車が捨ててあったけど、水は大丈夫なのかな」など、子どもたちから大岡川に対する疑問がたくさん出てきました。

また、去年の「ともだち」の活動を振り返ると、「もっと生き物とかかわりたい。」「今年は川の生き物を調べたい。」という意見が多く出て、大岡川の生き物に対する子どもたちの関心が更に高まりました。「自分たちで調べてみよう！」と、大岡川に生息する生き物を見つけることから活動がスタートしました。



4年3組

「エコエコ大作戦！目指せ！きらりん石けんはかせ」

社会科のごみの学習でリサイクルを学んだ子どもたち。身の回りにリサイクルができるものはないかと探していました。大好きなから揚げやてんぷらを作るときに家庭で使われる油は、吸わせたり固めたりして捨てられるものと思っていたところ、大好きな揚げパンを作った時に使われる油は、吸わせて捨てるのか、固めて捨てるのか、それにしても大量だから大きなゴミになるよね…といった話から、栄養士の先生や調理員さんに尋ねてみることにしました。

インタビューをしてみるとびっくり！なんと、給食室から出る大量の廃油はリサイクル工場に引き取ってもらっていることが分かりました。また、学校で使う油は「米油」で、高級であること、2～3回で捨てるのはもったいないという思いから、一部を調理員さんの手で石けんにリサイクルしているということも分かりました。「え？油で汚れを落とすの？」子どもたちの疑問はさらに深まります。自分たちも石けんにリサイクルしてみたい！！という思いを調理員のAさんに伝え、教えてもらうことになりました。

廃油と苛性ソーダとみかんの皮、尿素を合わせ一週間混ぜ続けます。一か月ほど熟成させると手にやさしく、雑巾を洗うと真っ白になり、油よごれもしっかり落とせる石けんに出来上がりました。しかし、出来上がった石けんの姿に子どもたちの戸惑う姿も…。ドロドロしていて石けんじゃないみたい。知っている石けんとは匂いも色も違う…。もっと自分たちの思い描く石けんらしい石けんを作りたい。子どもたちの探究活動は続きます。

